⬆天狗旗 てんぐフラッグ

切って爪楊枝に巻くことで旗になる！
ひと手間かけて楽しい食卓！

てんぐアートの発表会
天狗、カフェに来るってよ。

本日はてんぐアートの発表会vol.1「天狗、カフェに来るってよ。」にお越し頂きましてありがとうございます。色々な天狗を模した作品が展示されているはずです。これを打っている段階では、完成形が見えていません。

このペーパーランチョンマットは以前の展示でも作った物で、暇つぶしを目的としております。飲食して頂くタイミングで、特にお一人の方は手持ちぶさたになるでしょ？　そんな時、目の前に何かしらのテキストや絵などがあれば、若干ヒマをつぶせるのです！　ただただ食事をして帰る、ということになりがちなのですが、少し余裕を持って店に滞在することができます。どうぞごゆっくりお楽しみ下さい。

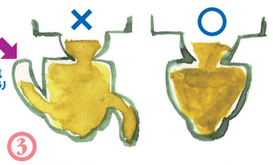
緊急特集！ ソフビができるまで！

以前から興味があった「ソフビ」。今回この展示をやらせてもうタイミングで制作することができました。その道でご活躍の「サンガッツさん」という方に協力してもらいました。全てを一から一人で作るとなると、結構な金額がかかります。しかし、色々工夫して頂いて、割安で作ることができました。

今回完全ではないですが、ソフビがこんな風な行程を経作られていることを、絵と文章でお伝えしたいと思います。この展示で余程のことがない限り販売されている（はずの）天狗のソフビ人形がどのようにして完成したのか、ぜひご覧下さい。そしてなにより、サンガッツさんありがとうございました！

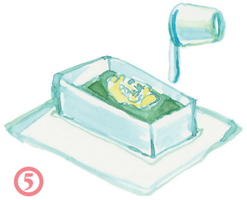
①⬆まず完成形を考えます。イラストに起こして、それを見ながら原形を作ります。

②➡今回はソフト ファンドという石粉粘土を使いました。ある程度造形したら乾燥させ、削る、ヤスリで磨く、これを繰り返します。



③⬆ソフビ原形を作るときは、ソフビの液を入れた時に全体に液がまわる様な構造にしないといけません。左のイラストでは空気が入ってしまってうまく液がまわりません。右が正解。

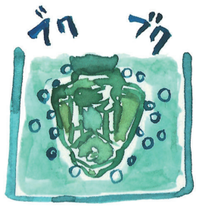
④⬆ほぼ完成したものをチェックしてもらい、ソフビの液（ゾル）を流し込む「湯口」という部分をソフビにくっつけます。



⑤⬆完成した原形を元に、シリコンで型を取ります。立体物なので、片面ずつ、2回シリコンを流します。

⑥⬆完成したシリコン型。これをサンガッツ師匠に渡して、ロウ型を作ってもらいます。ここで使用するロウは色々な種類があるそうです。

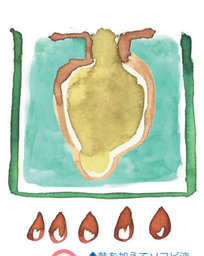
⬅ここから工場での作業



⑦⬆ロウ型をオイルに浸けて電気を流します。すると科学的なことが起こってロウ型の周辺に金属が付いて行きます。電鋳という製法。メッキ処理されます。これにより「金型」になっていきます。

⑧⬅⬇出来上がった金型を火にかけて、中のロウを溶かします。溶けたロウを捨てたら金型の完成。

⑨➡金型にソフビの液（ゾル）を注入します。液から空気を抜く為に遠心脱泡機という機械で気泡を抜きます。



⑩⬆熱を加えてソフビ液（ゾル）を硬化させる。この時の時間でソフビの厚みが変わります。

⑪➡熱余分なソフビ液（ゾル）を捨てます。

⑫⬅柔らかいうちにペンチで引っこ抜いて完成！　冷めてからだと引っこ抜けない！

ここまでやって単色のソフビが完成します。これにエアブラシや手塗りで彩色して、カラフルなグッズになるわけです。果たしてちゃんと塗装された天狗ソフビは展示販売されているのでしょうか!?　調子が良ければ、また作ることもできるでしょう。

てんぐアートグッズ

⬆ソフビ:天狗01a
スーベニアシリーズ／約65mm
てんぐアート初のソフビ。販売個数30個（予定）　特別価格700円
※通常素体500円／彩色1000円
※彩色は変わる場合があります。

⬇天狗キーホルダー／約90mm
キーチェーン等も有り

⬅ドクロ天狗
カラビナ／約120mm
骨がむき出しの造形。脳みそが入っているタイプも有り

⬆天狗ブローチ／バッチ　約50mm

⬆天狗マグネット／約50mm　強力なマグネットにより、少々の重さの物は鼻をフックとして引っ掛けることができる。

⬆天狗チャーム／イヤホンアクセ。約50mm

⬅天狗LEDライト／約90mm
スイッチを入れるとレインボーカラーにギラギラ光る

てんぐアート×ぽたかふぇ。コラボメニュー

⬅⬆天狗ラテアート
天狗と鳥天狗を端的に表しています。そのつもりです。

⬆てんぐアイス ￥350
キュートは顔の天狗アイス。各所にお菓子が使われていて食べてもおいしいデザートとなっています。あえて書かれたてんぐの文字に哀愁を感じるかも。

⬅てんぐカリー ￥1,000
（ランチタイムはコーヒーor紅茶付）
大胆に突き刺された「天狗の鼻（うまい棒）」が特徴的なカレー。ベースのカレーは普段から評判のモノ。鼻を崩してアクセントにして食べるのがポイント。

てんぐアートって、なに？

てんぐアートとは、デザイン業やイラスト業をやっている、畠瀬廉（はたせ れん）の活動名です。てんぐアートの特徴は、グッズや作品のモチーフが「天狗」であること。なぜ天狗をモチーフにしているのか。よく聞かれる質問です。考えた末におもしろい答えが出ないことがハッキリしましたので普通に書きます。作品を作ろうと思った時に、何かモチーフになる素材はないだろうかと考えました。こけし、だるま…色々な民芸品に興味があったので、その辺りで探している時に、天狗にぶつかりました。そしてネットで見る限り、あまり天狗をモチーフにして何かをやってる人が少ないことがわかりました。しかも天狗の造形が好きだった私ですが、その存在とか、歴史に関しては全く知りませんでした。天狗について調べつつ、グッズなんかを作るのは楽しいに違いない！　と思って2010年6月頃スタートしたのです。

畠瀬廉 ren hatase　イラスト／デザイン
1974年　岡山県生まれ　小中高は香川県の高松で過ごす。
成安造形大学卒業。2000年～東京在住
〒110-0016　東京都台東区台東2-32-11
URL http://tengart.com/　e-mail info@tengart.com

2013年5月末発行／Copyright © 2010 REN HATASE All Rights Reserved.

天狗スポット／しもきた天狗祭り

下北沢の曹洞宗大雄山真龍寺を中心に行われる祭り。天狗面の山車を引き連れて、天狗、烏天狗、山伏が町をパレードする。下北沢の節分祭でもある。

天狗スポット／迦葉山龍華院弥勒寺

群馬県沼田市にあるお寺。天狗の寺として知られ、高尾山薬王院、鞍馬寺と共に「日本三大天狗」の一つに数えられる。巨大な天狗面がある。

天狗スポット／古峯ヶ原古峯神社

栃木県鹿沼市にある神社。別名「天狗の社」とも呼ばれ、神社内参籠室や廊下には所せましと天狗の面等が掲げられている。巨大な面は必見。

天狗スポット／大雄山 最乗寺

神奈川県南足柄市にある曹洞宗の寺院。天狗にまつわる伝説のあるお寺で、あちこちに天狗や天狗の鉄下駄がある。

天狗スポット／高尾山

東京都八王子市にある山。古くから天狗が存在しているとの伝説がある。修験道の霊場であり高尾山薬王院の寺域となっている。多数の天狗の立像や、面がある。